



漢民目録中





源氏日業書卷之三



まうか

一 かのあしほののほまに何事も表代

まを記すゆし

一 ちかき

何ヨウホウカ  
金持

一 名河の 緋若 録 録 録 録 録

不詳  
不詳  
不詳  
不詳  
不詳  
不詳  
不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳

一 不詳











野老のまはる  
 蓮のまはる  
 一 女三の夜  
 悪鬼  
 夜多不願  
 一 葉枝  
 一 橋木  
 一 葉枝  
 一 橋木

一 葉枝  
 一 橋木  
 一 葉枝  
 一 橋木  
 一 葉枝  
 一 橋木  
 一 葉枝  
 一 橋木  
 一 葉枝  
 一 橋木

一 葉枝  
 一 橋木  
 一 葉枝  
 一 橋木  
 一 葉枝  
 一 橋木



一 玉のわりくまらう... 方士し公術士か  
 一 大液の芙蓉未央柳 見長根子 大液ハ  
 池の名し芙蓉ハ 蓮の心未央ハ 蓮の色  
 蓮花柳ハ 楊中妃とくまらう

一 大液子の柳の 替中ハ大液子あとして  
 有根とニとく... 柳膳すのも也 是ハ市に  
 まる傍りし柳のハ 柳膳すも也

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔

一 大い... 不潔  
 一 大い... 不潔



一犬御を此總 爲御事一也 ちりちりありと云ふ  
あどまよありありぬぞ ちりちりありと云ふ  
さるるをばあぬき一と云ふ ちりちり

一犬御をさるるちりちりのりちり地下のちり  
ちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
毎ちりちりの御し 花礼記曰鐘鼓在庭

琴瑟立堂 今堂天鼓の必堂下云て  
打す 但定治五年五月廿五日 否と競  
馬六番ノ時 主上自 打太鼓 治の時  
置堂上也 一犬人ノ所 打常也

女房進のあつち 一犬やま 御御 御  
一犬のあつち ちりちり 先第一 儒者 奉  
御 獻題 次書 韻山子 盛中 院置  
庭中文 臺上 近衛 次將 先探 料  
韻子字 置 苜蓋 昇 自 沙 茶 階  
獻之 次 王 錦 堪 屬 文 者 文 之 若

一犬進文直皇頭探一字見之夢

官姓名及不探也 今案探韻ハ  
各一字詩也 悉 韻字 ちりちり 故 懷  
依ノ 湯 作 云ク 春 月 同 賦 春 夜 歌  
櫻 花 名 分 一 字 應 兼 衣 詩 控 得 出  
可書也 一犬の君 大将ハ

ちりちりちりちりちりちりちりちり  
けりちりちりちりちりちりちりちり  
ちりちりちりちりちりちりちりちり

一犬のちりちりちりちりちりちり  
内一人を在し 豊一犬のちりちりちり  
夢とのちりちりちりちりちりちり

一犬のちりちりちりちりちりちり  
薪及菓蓋 隨時 恭敬 興 櫻 葉 ちりちり  
一犬のちりちりちりちりちりちり

一犬のちりちりちりちりちりちり































うゝとあづく〜しめなをくはくはのま  
 らりゆゑなきまはば〜をらゆき〜と  
 ちかを叫ぶ〜 一〜いす〜とあり  
 秋自歎息・俄頃風定雲黑杜詩  
 桂嶺瘴来雲似墨・洞庭春尽水如天柳子厚詩  
 一〜いす〜とあり  
 一その人なりぬ寛平造滅云今頃不  
 向之中念負三人流形其子必念  
 来負げあともあわれがみ弟よ  
 多りしと上卡略一〜志の意が  
 諸衛六衛のつけつと云わぬ  
 何れ妻令曰主君可正又堂調習

孝天魯仁徳天白少はすはる藤ら  
 一〜いす〜とあり  
 一その人なりぬ寛平造滅云今頃不  
 向之中念負三人流形其子必念  
 来負げあともあわれがみ弟よ  
 多りしと上卡略一〜志の意が  
 諸衛六衛のつけつと云わぬ  
 何れ妻令曰主君可正又堂調習  
 一〜いす〜とあり  
 一その人なりぬ寛平造滅云今頃不  
 向之中念負三人流形其子必念  
 来負げあともあわれがみ弟よ  
 多りしと上卡略一〜志の意が  
 諸衛六衛のつけつと云わぬ  
 何れ妻令曰主君可正又堂調習











子とて下とて下がり一つやうとて中女

ふとて下とて中女とて下り

つとて下り秋除自し第ニ京及除月春

除自若号除若又各并住事及春

者大政友藤秋者於外記麻下

之仍秋及下秋陸再八月也下

月の一も重おとくひて禁中

あふ中女の出も一もて物利

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ

あふのらむ秋のあふまふ



一いつらいつちあのみありさうなぐれだ  
一非原ち改ち原よて。第ニ舎あどの出仕  
まじりまゝなせあしづらあし

一つあぢあぢのりそ 教諭のあまは  
ゆるぎくは高量するこしよらあま  
まじりまゝなせあしづらあし 何放後試  
しあし

一いつあまて 非しあまのあまあま  
一あまのあまあま 花たしくいあま  
あまあまあまあまあまあまあま  
あまあまあまあまあまあまあま

一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま

一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま

一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま

一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま

一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま

一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま  
一あまのあまあまあまあまあまあま







よのあつりそののねと寝とさつり

一ねびくまのうら二女別直 亦女別

直ハ近江式よりくし 亦別直一劫

今ノ寺も院ニ交開白ありま別直の

解とてわり 一まの宮を扱わ不控

親をききお経あり 一女房のさつり

臺盤下し 一ねまきしあし

年三・正丑九月六日白紙天帝人あ

月南別ツ廻りありまきしね星

一子白 え日子白也十節記回正月

子日冬宮岳遙望四方持法海静

ん途慕い悩ま迷一ねまきし 衿豆言

ねまきし又神祈又一子日くま ねまの

帯内也正月のまの日茶筒多き

一ねまきしとねまきしすしつらさつり 花

樹ノ字言やしくねまきし五言通下也

一女の白もあつりありて 何と今二冬

白の事平終りに通一あしあつり

後撰云くしあつり後撰はしあつり

小き一くしあつり ねまきのまき新

一ねまきしくしあつり 花着まの

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき

ねまきのまきあつり ねまきのまき



































































つれづれは、原海がねも信三信五のウツとけ  
つれづれ

一海にありてあまを  
ひきつりてんやうに （女） 定めて 明月記  
云雨脚 轟地 雷光 漲金衣

一この中のつれづれ （女） 定めて 明月記

ありせまりしとありのめとのあまを

つれづれ （女） 定めて 明月記

信三明神 （女） 定めて 明月記

うらむちあつる神 （女） 定めて 明月記

神 （女） 定めて 明月記

えんあま （女） 定めて 明月記

いん （女） 定めて 明月記

一ゆより （女） 定めて 明月記

方士 （女） 定めて 明月記

碧衣 （女） 定めて 明月記

下者 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記

一 （女） 定めて 明月記



















































































儒らの效をきく 一ふせあておひやけあ  
親王大臣以下布族と内裏はらうご  
めし。灌漑の布族は、有八段を用  
くると中比より紙はぬるこ

一ふくひふりあくるる あらまゝあつてい  
候 六位 袍カウよきいり

一衣カウよもあよりやつれぬ 服衣カウよもい  
あまうしし

一うちらのらよ 奥カウよ。川カウよ不用  
ちあ新カウは信カウより。と種カウの種カウ有と

一たて丁有ととち一ふりいあががら  
謗し。河海カウ琴カウ此謗のり種カウあり略カウ

一ふんどよめて 物カウを封カウ一ある。新  
持者の指カウ 一ふりがカウせ三カウ屋

一あめても回カウ二ふりいあま  
ほひのまぶよりせ三カウのまぶが

一あつと 一あつと  
無止カウ 一あつと

一あつとあつとあつと 花 琴のあつと

一あつとあつとあつと 柏木あつとあつと

一あつとあつとあつと 音律カウハ音カウの

一あつとあつとあつと 音カウハ音カウの

一あつとあつとあつと 音カウハ音カウの

一あつとあつとあつと 音カウハ音カウの

一あつとあつとあつと 音カウハ音カウの

一あつとあつとあつと 音カウハ音カウの

一あつとあつとあつと 音カウハ音カウの



































































